

高等部 作業学習 学習指導案

日 時：令和7年7月4日（金）

9：00～11：00

場 所：本館3階 第2・3作業室

対 象：高等部生徒 16名

授業者：西村 圭介 播磨 久美子

半田 郷子 神崎 稔正

丸尾 流星 峰藤 暁志

森田 理恵

1 単元について

(1) 単元名 P Pバンドの平織りによるトートバッグ作り

(2) 本グループの生徒の実態と作業種目について

高等部には、入学してからこれまでに、メンテナンスや喫茶などの作業種目の経験はあるが、ものづくり作業の経験がない生徒も在籍している。生徒の作業の様子を見ると、作業に続けて取り組むことや規格通りの製品を作るために決まった仕方で行うこと、早く正確に見直し、必要に応じて修正して作業を進めることなどに課題が見られる。また、学部全体として、教科別の指導で身につけた内容を日常生活で活用しにくいという傾向がある。

本単元で取り上げたトートバッグは生徒の身の回りにもあり、作った製品を家庭で利用できるなど身近なものである。また、長さや織り目などの規格も決めやすく、同じ手順を繰り返してできる作業が多いため、規格通りの製品を作るという確実な作業の指導に適している。また、注文票に記載する内容を決めて作成することや流通の仕組みの整理、原価計算、売上金の管理などの活動を設定することで、国語科の書くことや社会科の産業と生活、数学科の数と計算などの各教科の様々な内容を実生活に即した場面で指導できる。

(3) 単元計画

		単元			
		題材①	題材②	題材③（本題材）	題材④
時数		5	21	③ - 1	③ - 2
				22	26
題材の概要		製品の用途や規格、材料の特性などを知り、作業の準備をする題材	大まかな作業の仕方や安全な作業の仕方を知り、試作をする題材	注文を受けて分担した仕事を確実に仕上げ、規格通りの製品を作る題材	注文を受けて計画的に製品を仕上げる題材
中心となる内容	K	職業・家庭科 中学部1段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ⑦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。	職業・家庭科 中学部1段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ⑦ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。	職業・家庭科 中学部1段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ⑤ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 (イ) ⑦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。	職業・家庭科 中学部1段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ④ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) ⑦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。

中心となる内容	B	職業・家庭科 中学部１段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㉞ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。	職業・家庭科 中学部１段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㉞ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。	職業・家庭科 中学部１段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㊥ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 (イ) ㉞ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。	職業・家庭科 中学部１段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㊥ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) ㉞ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。
	O	職業・家庭科 中学部２段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㉞ 職業生活に必要な知識や技能について理解すること。 (イ) ㊥ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。	職業・家庭科 中学部２段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㉞ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 (イ) ㊥ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。	職業・家庭科 中学部２段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㊥ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方を理解すること。 (イ) ㊥ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。	職業・家庭科 中学部２段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業 (ア) ㊥ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを身に付けること。 (イ) ㊥ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。
配属的な内容	K	社会科 中学部１段階 エ 産業と生活 (ア) ㉞ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっていることが分かること。	数学科（算数科 小学部２段階） A 数と計算 ア（ア）㊥ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。		

配属的な内容	B	社会科 中学部1段階 エ 産業と生活 (ア) ⑦ 生産の仕事は、地域の人の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。	国語科 中学部2段階 B 書くこと ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	数学科 中学部2段階 A 数と計算 イ (ア) ⑦ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 数学科 高等部1段階 A 数と計算 オ (ア) ⑦ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
	O	社会科 中学部1段階 エ 産業と生活 (ア) ⑦ 生産の仕事は、地域の人の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。	数学科 高等部1段階 A 数と計算 オ (ア) ④ 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 カ (ア) ④ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。	数学科 高等部1段階 A 数と計算 オ (イ) ⑦ 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。

2 本題材について

(1) 題材名 担当した作業を続けてしたり、でき具合を見直したりしながら、決めた仕方で分担した作業を進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

(2) 本題材の位置づけと教材を通して指導すること

本単元のPPバンドの平織りによるトートバッグ作りは、題材①は製品についての理解を図り、作業の準備をする題材、題材②は校内の受注販売に向けた試作の題材、題材③（分担1、分担2）では、生徒たちの身近な人や地域の人に販売するために、分担作業で確実に作業を進める題材、題材④では、注文を受ける幅を広げ、担当した作業が終わるまで取り組んだり、受注の状況や半製品や製品の出来高に応じて計画的に作業をしたりする題材の四つの題材で構成しており、年間を通して取り組んでいる。本題材は、題材③の分担1（題材③-1）に位置しており、教職員など身近な人からの注文を受けることにより、生徒が作業に取り組む目的やよい製品を作る必要性を感じ、自分から作業に取り組んだり、続けたりする態度、規格通りの製品を作るために決めた仕方で作業に取り組むこと、規格通りになっているかを見直しながら作業を進めたりすることなどが育てられると考える。

(3) 作業工程と分担

手順と生徒	材料の裁断	底作り①	底作り②	胴部分の編み上げ	縁の処理	持ち手付け
		A・M	B・I			
	C・K・L	輪作り		D・F・J・P	E・G・O	教師
		H・N				

(4) 生徒の実態と指導の方向

	生徒の実態	指導の方向
K	【一般的な実態】 CA : 16 ・ジェスチャーや指さしを用いて教師に自分の思いを伝える。 ・あいさつや報告などの決まった言葉を言うとき、教師が言った言葉に沿って発音するが、不明瞭である。 ・活動の途中で床に座り込むことがある。 ・タブレット端末や特定のキャラクターを提示すると、課題に取り組むことが多い。 【指導方法に関わる実態】 ・両手を使う必要がある動作をするとき、片手で行うことが多い。 ・教師と一緒に取り組むことからはじめ、徐々に一人で取り組む部分を増やすことで、一連の活動に取り組むことができるようになる。 ・色や形の弁別ができる。 ＜学びに向かう力・人間性等＞ ・経験したことがない活動に取り組む時、教師が手本を示したり、活動の内容を動画で提示したりすると、取り組み始めるようになる。 ・授業の中で自分ができるようになったことに対して、自分で拍手をしたり、できるようになったことを友だちや教師の前で表現したりする。 ・教師と一緒に正誤判断をする箇所を指したり、一緒に数えたりしながら確かめると、間違いに気づいてやり直すことがある。 ・課題に取り組む際に必要なものを入れたかごを並べておくなど、その時間に取り組む課題の量を視覚的に示すことで、すべての課題を終えるまで取り組むことが多い。 【本題材に関する実態】 ＜知識及び技能＞ ・決まった位置に材料の端を合わせる、印にはさみを合わせて切るなどの簡単な手順に教師と一緒に取り組むと、一連の作業ができるようになる。 ・作業の途中で床に座り込むなどして、作業を終えることがある。 ＜配慮的な内容に関わる実態＞ ・教師が提示した数字分の具体物をそろえるとき、そろえる物が変わると、提示した数字とは異なる数の具体物をそろえることがある。	材料や道具を決まった位置や印に合わせるといった簡単な手順は理解できるが、自分が担当する作業をすべて終えるまで作業を続けることはできていない。そこで、本題材では、簡単な手順の作業で、自分が担当する作業をすべて終えるまで作業に取り組むようになってほしい。そのためにははじめは、裁断の一連の手順のうち、最後の手順から順番に、一つずつ教師と一緒に確認することで、裁断の仕方が理解できるようにする。そして、裁断の仕方を理解した段階で、自分で続けて作業をすることを指導していく。その際、自分の作業量がわかるように、取り組む作業の量を視覚的に提示するようにする。また、作業を終えた達成感を感じる経験を積み上げていくことができるように、作業量は徐々に増やすようにし、自分から次の作業に取り組み始めたり、作業を終えたりした場面を捉えて、十分に認めるようにする。
B	【一般的な実態】 CA : 15 ・自分より年下の児童生徒と活動するとき、名前を呼んだり、手をつないだりして、一緒に活動する。 ・路線バスを使って友だちと登下校している。 ・次の活動に必要な物の準備をしたり、自分から教室移動をしたりして、学校生活のスケジュールに沿って行動する。 【指導方法に関わる実態】 ・友だちの仕方を見て、自分の仕方との違いを伝えたり、友だちと同じ仕方にえたりして、課題に取り組む。 ・教師が手本を示しながら一つずつ手順を伝えと、自分で取り組むことができるようになる。 ＜学びに向かう力・人間性等＞ ・自分が経験したことやできるようになったことを友だちに伝え、一緒に課題に取り組む。 ・経験したことがない課題に取り組むとき、「できるか不安」などと教師に伝える。 ・わからないことがあると、自分から「どうすればよいですか」などと教	自分の作業量を理解し、最後まで作業に取り組むことや、自分で決めた仕方を理解して作業することはできていると考えられる。しかし、作業を続けるにしたがって、決めた仕方とは異なる仕方で作業をすることがある。これは、決めた仕方で作業をすることで、規格通りの半製品や製品ができるというよさを理解していないからであると考える。そこで、本題材では、決めた仕方で作業をして、規格通りの半製品ができたという経験をより多くできるように、底作り作業の一連の手順の最後の手順から一つずつ

	師に質問する。 【本題材に関する実態】 ＜知識及び技能＞ ・授業のはじめに担当する作業量を知らせると、自分から材料などを取りに行き、すべて終わるまで作業を続ける。 ・縦バンドと横バンドの接着する位置を決め、その位置で接着するなど、決めた仕方で作業をする。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ ・作業に繰り返し取り組むうちに、決めた仕方とは異なる仕方で作業を進めることがある。 ＜配慮的な内容に関わる実態＞ ・修学旅行でお小遣いの残金を計算する時、加法を筆算で計算しようとするが、位を間違えたり、計算の仕方を教師に尋ねたりすることがある。	順番に指導していくようにする。その際、決めた仕方で作業をして、半製品ができた場面を捉えて良品と見比べるようにし、決めた仕方で作業をした結果について伝えたり、問いかけたりして、決めた仕方で作業をすることのよさを十分に意味づけるようにする。また、それぞれの手順で決めた仕方を理解して取り組めるようになった段階で、一人で作業をする時間を確保することで、決めた仕方で最後まで作業ができるようにしていきたい。
○	【一般的な実態】 CA : 17 ・路線バスを使って、一人で登下校している。 ・係仕事や清掃などの自分が担当していることに自分から取りかかり、最後まで取り組む。 ・友だちに次の活動を伝えたり、一緒に取り組んだりする。 【指導方法に関わる実態】 ・教師の手本を見て、「〇〇を△△すればよいですか」「□□を接着しますか」などと尋ねながら、作業の仕方を修正しようとする。 ・既習の内容でも、取り組む状況が変わると間違えることがある。 ＜学びに向かう力・人間性等＞ ・誤答をした際に、自分の答えと解答とを比較しながらやり直す。 ・友だちと考えを話し合いながら課題に取り組むとき、自分が考えたことを伝えたり、友だちに尋ねたりする。 【本題材に関する実態】 ＜知識及び技能＞ ・縦バンドに一つずつ縁バンドを通すことや決めた仕方で接着することなど、自分で決めた仕方で作業をして、規格通りの半製品を作る。 ・その日の作業量を知らせると、自分から半製品や材料を取りに行き、自分が担当した作業を終えるまで続ける。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ ・半製品が仕上がった場面で規格通りになっているか見直すが、作業の終了時刻が近づくと見直しをせずに作業を終える。 ＜配慮的な内容に関わる実態＞ ・合計金額の計算などの場面で、乗法の立式を間違えたり、教師に支援を求めたりすることがある。	自分で決めた仕方で規格通りの半製品を作ったり、自分の担当する作業がすべて終わるまで決めた仕方で取り組んだりすることができている。また、半製品が規格通りにできているか見直す姿も見られる。しかし、半製品が仕上がってから見直したり、見直しをしないことがあったりすることから、「不良品を作らないために見直す」という見直しをすることの本来の意味は理解していないと考えられる。そこで、本題材では、取り組む手順を段階的に増やしていく中で、不良品ができた場面を捉えて、見直す場面や視点を考える活動を取り入れるようにする。その際、納期に間に合うように作業を進めるために、「見直しや修正のしやすさ」が考えるための視点となるようにしていく。そのような活動を通して、見直す場面やそのときの視点を自分で決め、効率よく見直ししながら、確実な作業を続けることができるようになってほしい。

※Kについては、題材③全体の目標を、BとOについては、題材③-1の目標を示している

生徒	題材目標		学習指導要領の扱う内容
K	知	裁断の作業をする時、決まった仕方と自分の作業量がわかり、自分から次の材料を取りに行き、決まった仕方でかご三つ分の材料がなくなるまで裁断の作業に続けて取り組む	中学部 職業・家庭科 1段階 職業分野 【知識及び技能】 イ（イ）㊥ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ（イ）㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 【学びに向かう力・人間性等】 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。
	思	自分が担当する作業に取り組む時、自分から次の材料を取りに行き、決まった仕方でかご五つ分の材料がなくなるまで、裁断の作業に続けて取り組む	
	学	毎回の作業ですべての材料がなくなるまで、決まった仕方で作業する	
	配	教師が提示した数字分の製品をそろえる	数学科（算数科 小学部2段階） A 数と計算 【知識及び技能】 ア（ア）㊥ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。
B	知	底作りの作業をする時、決めた仕方がわかり、底縦バンドを底横バンドに編み込み、接着する作業に決めた仕方で取り組む	中学部 職業・家庭科 1段階 職業分野 【知識及び技能】 イ（イ）㊥ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ（イ）㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 【学びに向かう力・人間性等】 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。
	思	自分が担当する作業に取り組む時、自分が担当した半製品や材料がなくなるまで、底作りの作業に決めた仕方で続けて取り組む	
	学	毎回の作業で決めた仕方で自分が担当した作業を終えるまで取り組む	
	配	加法や乗法を用いて売り上げの合計金額を計算して売上表に入力する	中学部 数学科 2段階 A 数と計算 【知識及び技能】 イ（ア）㊦ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 ----- 高等部 数学科 1段階 A 数と計算 【知識及び技能】 オ（ア）㊦ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
O	知	縁処理の作業をする時、決めた仕方がわかり、縦バンドを裁断して編み込んだり、縁バンドを入れたりする作業に決めた仕方で取り組む	中学部 職業・家庭科 2段階 職業分野 【知識及び技能】 イ（ア）㊥ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ（イ）㊦ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 【学びに向かう力・人間性等】 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
	思	自分が担当する作業に取り組む時、見直したり、必要に応じて修正したりしながら、自分が担当した半製品や材料がなくなるまで、縁処理の作業に決めた仕方で取り組む	
	学	毎回の作業で決めた仕方で繰り返し取り組んだり、半製品のでき具合を見直し、必要に応じて修正したりしながら	

		ら、自分が担当した作業を終えるまで取り組む	
	配	乗法を用いて売上金を集計し、売上表に記入する	高等部 数学科 1段階 A 数と計算 【思考力・判断力・表現力等】 オ(イ)㊦ 数量の關係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。

4 題材計画（全 22 時間） ※資料末尾にA3別紙で記載

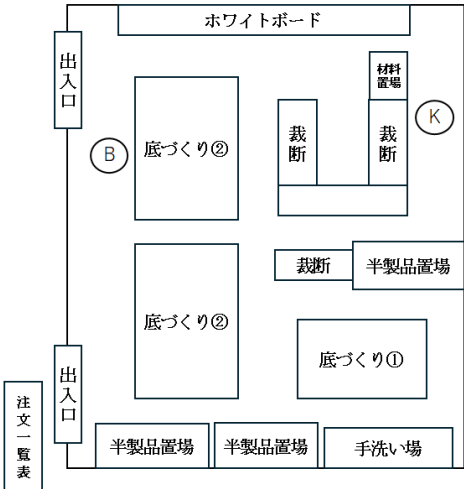
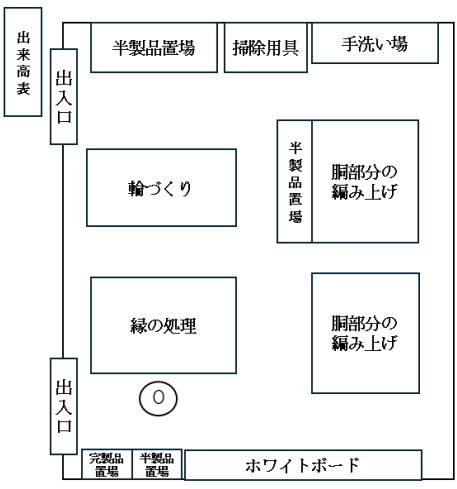
5 本時案（全 22 時間の6・7時間目）

（1）**題目** 規格通りの製品を作るための仕方を考えたり、半製品のでき具合を見直したりしながら作業を進め、自分の担当する作業に取り組もう

（2）本時のめあてと評価規準

生徒	観点別の本時のめあて		評価規準
K	知	90cmの縦バンドを切り出す時、はさみを合わせる位置がわかり、はさみを印に合わせて、PPバンドを切る	「3. 発展」場面の10試行中6～10試行目で、はさみを印に合わせて、PPバンドを切る
	思		
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した具体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う	
	配	A3資料「4 題材計画」の配慮的な内容に記述した姿について、題材終了後に評価を行う	
B	知	17本の底縦バンドを底横バンドに編み込む時、編み込む順番に目を向け、良品と見比べて次に編む順番を確認しながら、底縦バンドを2本ずつ重ね、9本の底横バンドの上と下を交互に通した後に、左右に1本ずつスライドさせる仕方で隣り合う底縦バンドの編み目が互い違いになるように編む	「3. 発展」場面の2試行中2試行で17本の底縦バンドを、隣り合う底縦バンドの編み目が互い違いになるように良品と見比べながら編み込む
	思		
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した具体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う	
	配	A3資料「4 題材計画」の配慮的な内容に記述した姿について、題材終了後に評価を行う	
O	知		
	思	外側に向いた28本の縦バンドを胴部分に編み込んで縁バンドを通す時、縁バンドを胴部分の一つの面に通し終える度に縁バンドがすべての縦バンドを通っているか見直し、必要に応じて修正をしながら最後まで続けて作業をする	「3. 発展」場面の2試行中2試行で、胴部分の一つの面に縁バンドを通す度に、すべての縦バンドに通っているかを見直し、必要に応じて修正して規格通りの半製品を作る。 ※半製品のでき具合を見直す必要性を感じた上で指導できるように、不良品ができた場面を捉えて指導していくため、授業展開によっては、評価規準を変更することもある
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した具体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う	
	配	A3資料「4 題材計画」の配慮的な内容に記述した姿について、題材終了後に評価を行う	

(3) 場面設定と準備物

場面設定		意図と工夫点
【第2作業室】 	【第3作業室】 	材料や半製品の流れがわかるように、半製品が仕上がっていく順番で各工程の作業台や材料・半製品置場を配置した。また、それぞれの工程の作業の進捗状況がわかるように、二つの教室をつなぐ廊下に出来高表を設置した。

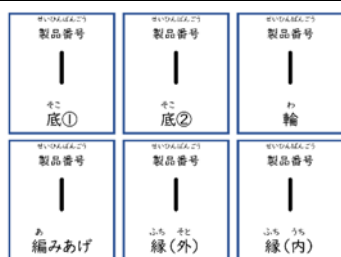
準備物

	学部	氏名	色			代金	作業工程			緑(外)	緑(内)	持ち手	納期
			黒×ベージュ	青×ベージュ	ピンク×ベージュ		底1	底2	輪	編み上げ			
1	小	田中	1			800	✓	✓	✓	✓			7/14
2	中	田中	1			800	✓	✓	✓	✓			7/14
3	小	田中	1			800	✓	✓	✓				7/14
4	小	大田	1			800	✓	✓	✓	✓			7/14
5	中	工藤	1			800	✓	✓	✓				7/14
6	中	高田	1			800	✓	✓	✓				7/14
7	中	高田		1		800	✓	✓	✓				7/14
8	中	高田			1	800	✓	✓	✓				7/14

教具名：出来高表

意図と用途

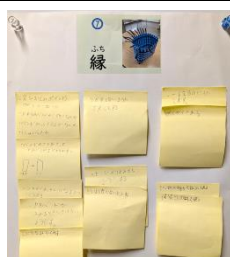
注文を受けた商品の種類や数、納期と現在の出来高などを確かめながら作業を進めるために使用する表。タブレット端末の表計算アプリで作成し、廊下に掲示して使用する。



教具名：注文番号カード

意図と用途

それぞれの半製品や製品がどの注文と対応したものであるかを示すために、各工程で仕上がる半製品や製品に付けるためのカード。



教具名：「良否の視点シート」

意図と用途

半製品の良否の視点から良品を作るための仕方を決めることができるように、半製品の良否について確かめたことを記入するシート。工程ごとに作成し、作業中に見える位置に配置する。



教具名：編み目フック

意図と用途

底作りの工程で17本の縦バンドを編み込む場面で、縦バンド同士の編み目を詰めるためにBが使用する。2か所の編み目に差し込み、詰めていく方向に動かして使用する。



教具名：スケジュールボード

意図と用途

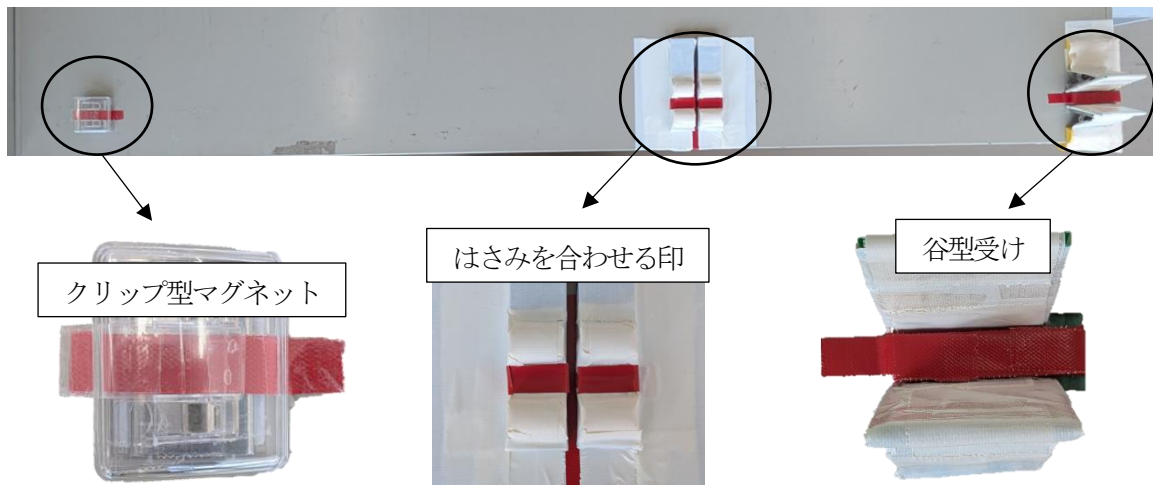
作業に取り組むセット数が視覚的にわかるように、セット数に応じたマグネットを付けたボード。1セット終わる度にマグネットを外してKが使用する。



教具名：材料かご

意図と用途

1セット分の作業量がわかるように材料を入れたかご。材料を取り出しやすいように、1本ずつ区分けしておき、Kの作業場所に配置する。



教具名：裁断台

意図と用途

PPバンドを決まった長さに裁断するためにKが「2. 展開」場面と「3. 発展」場面で使用する治具。一つ一つの手順を簡単な操作でできるように、クリップ型マグネットの端やPPバンドをかける位置に谷型受けを、はさみを合わせる印を付けたものをPPバンドを裁断するために使用する。



教具名：タブレット端末

意図と用途

本時の学習の振り返りを簡単な操作で主体的に行えるように、Kの作業の様子を教師が撮影したり、その動画をKが再生して見たりするために、「2. 展開」と「3. 発展」、「4. 終末」場面で使用する。

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

生徒			一次	二次					
	時数		1・2・3	4・5	6・7（本時）	8・9・10	11・12・13・14	15・16・17・18	19・20・21・22
K	知識・技能	場面	本題材における作業課題を知り、裁断で仕上がる半製品の規格や良否の視点を確かめ、納期までに製品を作る課題をもつ	90 c mの縦バンドを切り出す時					
		わかること		はさみを合わせる位置に目を向け	はさみを合わせる位置がわかり	P Pバンドをかける位置に目を向け	P Pバンドをかける位置がわかり	P Pバンドの端を合わせる位置に目を向け	P Pバンドの端を合わせる位置がわかり
		できた姿		教師の言葉かけを聞き、はさみを印に合わせて、P Pバンドを切る	はさみを印に合わせて、P Pバンドを切る	教師の言葉かけを聞き、P Pバンドの右端に付けた重しを持ち、谷型受けの印に沿ってP Pバンドをかける	P Pバンドの右端に付けた重しを持ち、谷型受けの印に沿ってP Pバンドをかける	教師の言葉かけを聞き、P Pバンドの左端をクリップ型マグネットの印に沿って受け部分に当ててはさむ	P Pバンドの左端をクリップ型マグネットの印に沿って受け部分に当ててはさむ
		配慮的に扱う内容							
	思考・判断・表現	具体的状況							
		表出像							
	主体的な姿	粘り強さ 学習調整	□自分からタブレット端末を操作して、自分の作業の様子の動画を見る 終 □裁断の作業に自分から取り組み始める 展 発 □作業に必要な材料や道具を自分から取りに行く 展						

		二次			三次					
時数		23・24	25・26・27・28	29・30・31・32	33・34	35・36	37・38	39・40・41・42	43・44・45	46・47・48
知識・技能	場面	90 c mの縦バンドを切り出す時								
	わかること	自分の作業量に目を向け		自分の作業量がわかり						
	できた姿	材料が残っていることを知らせる教師の指さしと言葉かけを見聞きして、決まった仕方でかご三つ分の材料がなくなるまで裁断の作業に続けて取り組む	材料が残っていることを知らせる教師の言葉かけを聞き、決まった仕方でかご三つ分の材料がなくなるまで裁断の作業に続けて取り組む	自分から次の材料を取りに行き、決まった仕方でかご三つ分の材料がなくなるまで裁断の作業に続けて取り組む						
	配慮的に扱う内容	・教師が提示した数字分の製品をそろえる								
思考・判断・表現	具体的状況				自分が担当する作業に取り組む時					
	表出像				自分から次の材料を取りに行き					
					かご四つ分の材料		かご五つ分の材料			
がなくなるまで、裁断の作業に決まった仕方で取り組む										
主体的な姿	粘り強さ	□かご一つ分の材料がなくなったら、次の材料を取り、作業を続ける 展 発								
	学習調整	□毎回の作業ですべての材料がなくなるまで、決まった仕方で作業する 展 発								

※「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」の項目で観点別学習状況の評価のみを記載する。個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映することとする

※続けて作業をするという目標に到達するまでに長期的な指導を要する実態の生徒のため、一つの分担箇所で、題材③全体の授業時数 48 時間を使って指導する

生徒			一次	二次					三次		
	時数		1	2・3	4・5	6・7（本時）	8・9・10	11・12・13・14	15・16・17・18	19・20・21・22	
B	知識・技能	場面	本題材における作業課題を知り、底作りで仕上がる半製品の規格や良否の視点を確認め、納期までに製品を作る課題をもつ。	17本の底縦バンドを底横バンドと接着する時	17本の底縦バンドの上部と下部の長さをそろえる時	17本の底縦バンドを底横バンドに編み込む時		17本の底縦バンドに印を付ける時			
		わかること		接着剤を付ける位置がわかり	底縦バンドの立ち上げ部分の長さがわかり	編み込む順番に目を向け	編み込む順番がわかり	印を付ける必要性がわかり			
		できた姿		底の表面の手前側、裏面の手前側、表面の奥側、裏面の奥側の順番で、右端から順に底縦バンドを持ち上げて、底横バンドの最下段と交差する位置に接着剤を付けて磁石を置く	編み込まれたすべての底縦バンドの印を右端から順に底横バンドの最上段の上端に合わせる	良品と見比べて次に編む順番を確認しながら、底縦バンドを2本ずつ重ね、9本の底横バンドの上と下を交互に通した後に、左右に1本ずつスライドさせる仕方で隣り合う底縦バンドの編み目が互い違いになるように編む	底縦バンドを2本ずつ重ね、9本の底横バンドの上と下を交互に通した後に、左右に1本ずつスライドさせる仕方で隣り合う底縦バンドの編み目が互い違いになるように編む	当て定規を使って、底縦バンドの端から38 cmの位置に印を付ける			
		配慮的に扱う内容		・加法や乗法を用いて売り上げの合計金額を計算して売上表に記入する							
	思考・判断・表現	具体的状況	自分が担当する残りの作業に取り組む時			自分が担当する残りの作業に取り組む時		自分が担当する作業に取り組む時			
		表出像	自分から半製品や材料を取りに行き、底縦バンドと底横バンドを決めた仕方で接着し、底作りの作業に2セット続けて取り組む	自分から半製品や材料を取りに行き、底縦バンドの上部と下部の長さを決めた仕方でそろえて、底作りの作業に2セット続けて取り組む		自分から半製品や材料を取りに行き、底縦バンドと底横バンドを決めた仕方で編み込み、底作りの作業に3セット続けて取り組む	自分から半製品や材料を取りに行き、底縦バンドに決めた仕方で印を付けて、底作りの作業に3セット続けて取り組む	自分が担当した半製品がなくなるまで、底作りの作業に決めた仕方で取り組む			
	主体的な姿	粘り強さ	□自分でめあてを決め、作業日誌に記入する 導 □困った時に自分から教師に報告や相談をする 展 発 □友だちと良品を作るための仕方を話し合って決める 展 発								
		学習調整	□わかったことやできたことを日誌に記入する 終 □作業に必要な材料や道具を取りに行き、作業の準備をする 展 発 □毎回の作業で決めた仕方で自分が担当した作業を終えるまで取り組む 展 発								

※「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」の項目で観点別学習状況の評価のみを記載する。個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映することとする

※題材③では、二つの分担箇所（題材③ - 1、③ - 2）で指導を行う。上記計画は、題材③ - 1の「底作り②」の題材計画を示している

生徒			一次	二次						三次
	時数		1	2・3	4・5	6・7（本時）	8・9・10	11・12・13・14	15・16・17・18	19・20・21・22
○	知識・技能	場面	本題材における作業課題を知り、縁処理で仕上がる半製品の規格や良否の視点を確かめ、納期までに製品を作る課題をもつ	縁の外側に縁バンドを入れる時	外側に向いた 28 本の縦バンドを胴部分に編み込む時		外側に向いた 28 本の縦バンドの端を裁断する時	内側に向いた 28 本の縦バンドを胴部分に編み込む時	内側に向いた 28 本の縦バンドの端を裁断する時	
		わかること		縁バンドを通していく順番がわかり	縦バンドをさし込む位置がわかり		縦バンドの折り返し部分の長さがわかり	縦バンドをさし込む位置がわかり	縦バンドの折り返し部分の長さがわかり	
		できた姿		決めた縦バンドから順に、縁バンドを 28 本の縦バンドの内側に通した後、最初に通した縦バンドの右隣りにある縦バンドと縁バンドの端を接着剤で留める	外側に向いた縦バンドと縁の間に縁バンドを入れた後、縦バンドを縁に沿って折り返し、上から 2 段目の横バンドに接着剤を付け、上から 3 段目の横バンドに縦バンドをさし込む		縦バンドにバンドメーターを当てて、折り返し位置から 4.5 cmの位置に印を付けて、印に沿って切る	縦バンドを縁に沿って折り返し、上から 2 段目の横バンドに接着剤を付け、上から 3 段目の横バンドに縦バンドをさし込む	縦バンドにバンドメーターを当てて折り返し位置から 4.5 cmの位置に印を付けて、印に沿って切る	
		配慮的に扱う内容		・乗法を用いて売上金を集計し、売上表に記入する						
	思考・判断・表現	具体的状況	自分が担当する残りの作業に取り組む時		外側に向いた 28 本の縦バンドを胴部分に編み込んで縁バンドを通す時	自分が担当する残りの作業に取り組む時			自分が担当する作業に取り組む時	
		表出像	自分から半製品や材料を取りに行き、縁バンドを決めた仕方で通し、縁処理の作業に 2 セット続けて取り組む	自分から半製品や材料を取りに行き、外側に向いた縦バンドを決めた仕方で横バンドにさし込み、縁処理の作業に 2 セット続けて取り組む	縁バンドを胴部分の一つの面に通し終える度に縁バンドがすべての縦バンドを通っているか見直し、必要に応じて修正をしながら最後まで続けて作業をする	自分から半製品や材料を取りに行き、決めた仕方で外側に向いた縦バンドに印を付けて切り、見直しや修正をしながら縁処理の作業に 3 セット続けて取り組む	自分から半製品や材料を取りに行き、内側に向いた縦バンドを決めた仕方で横バンドにさし込み、見直しや修正をしながら縁処理の作業に 3 セット続けて取り組む	自分から半製品や材料を取りに行き、決めた仕方で内側に向いた縦バンドに印を付けて切り、見直しや修正をしながら縁処理の作業に 3 セット続けて取り組む	見直したり、必要に応じて修正したりしながら、自分が担当した半製品や材料がなくなるまで、縁処理の作業に決めた仕方で取り組む	
	主体的な姿	粘り強さ 学習調整	□作業に必要な材料や道具を取りに行き、作業の準備をする 導 □必要に応じて修正し、半製品を仕上げる 展 発 □友だちと話し合って仕方を決める 展 □半製品のでき具合を見直す場面や視点を友だちと話し合って決める 展 □気をつけたことやできたことを日誌に記入する終 □毎回の作業で決めた仕方で繰り返し取り組んだり、半製品のでき具合を見直し、必要に応じて修正したりしながら、自分が担当した作業を終えるまで取り組む 展 発							

※「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」の項目で観点別学習状況の評価のみを記載する。個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映することとする

※題材③では、二つの分担箇所（題材③- 1、③- 2）で指導を行う。上記計画は、題材③- 1の「縁の処理」の題材計画を示している

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ		
	K	B	O
1. 前時までの学習を振り返り、本時の活動からめあてを決める。 園	○本時の活動に見通しをもつことができるように、ホワイトボードに活動とその順番を載せたスケジュールを提示して、本時の活動とその流れを知らせる。 ○前時までの活動を振り返ることができるように、タブレット端末で作業の様子を撮影した動画を提示し、前時の取組とその成果を認め、作業に使用する材料や道具を示しながら、本時で取り組む作業内容とめあてを知らせる。 ○作業に必要な材料や道具を準備することができるように、材料や道具の名称を伝えたり、それらが置いてある位置を指し示したりして、作業の準備をすることを伝える。	○本時の活動に見通しと意欲をもつことができるように、出来高表を確認することを伝え、本時でも注文を受けた商品を作ることを知らせる。 ○前時までの活動を振り返ることができるように、これまでの作業日誌に記入した内容について問いかけたり、良品を作るために決めた仕方を確かめたりすることを知らせる。前時までの学習で決めた仕方や気つけたことなどを答えた場合には認め、本時でも確実な作業をすることや本時で取り組む作業内容を知らせ、必要な半製品や材料などをそろえて作業の準備をするように伝える。自分で作業の準備をした場合には、そのよさを伝えて認める。 ○底の編み目に目を向け、編み込みの仕方を決めることができるように、底の良品と底縦バンドが左右に7本ずつ編み込まれた半製品と2本ずつ重ねた底縦バンドを提示して、良品ができるように仕方を決めることを伝える。良品と底縦バンドを左右に7本ずつ編み込んでいる半製品の編み目を見比べ、2本重ねた底縦バンドを隣り合う底縦バンドと編み目が互い違いになるように編み、1本ずつ左右にスライドさせる仕方に決めた場合には、底の編み目から仕方を決めたことを認め、めあてを作業日誌に記入するように知らせる。決めた仕方を表現しためあてを記入した場合には、めあてを理解できていることを認め、そのよさを知らせる。 □作業に必要な材料や道具を取りに行き、作業の準備をしているか（自） □自分でめあてを決め、作業日誌に記入しているか（粘）	○確実な作業をする意欲をもつことができるように、前時までに取り組んだ仕方と半製品の良否とのつながりを確認し、本時でも良品を作っていくように知らせる。 ○納期に目を向けながら作業を進めることができるように、出来高表で納期と作業の進捗状況を確認するように知らせる。 ○自分で作業の準備ができるように、本時でも、前時までにできるようになった仕方で作業をすることを知らせて様子を見る。自分で作業の準備をした場合には、そのよさを伝えて認める。 □作業に必要な材料や道具を取りに行き、作業の準備をしているか（自）
2. それぞれの工程で作業の仕方やでき具合の見直し方を決めたり、決めた仕方で作業をしたりする。園	○PPバンドを決まった長さで切るためのはさみを合わせる位置に目が向くように、はさみを合わせる印を指さして様子を見る。はさみを印に合わせてPPバンドを切った場合には、決まった位置で切ったことを認め、切り終えた2本のPPバンドの端同士をそろえて提示し、切ったテープが決まった長さになっていることを伝える。 ・印以外の位置にはさみを合わせる場合には、PPバンドを決まった長さで切るために、はさみを合わせる位置が決まっていることがわかるように、教師が手を添え、はさみを持っている手を印付近に近づけて、印を指さす。 ○PPバンドを決まった長さで切るためのはさみを合わせる位置に、自分から目を向けてPPバンドを切ることができるように、谷型受けにPPバンドをかけた後に様子を見る。はさみを印に合わせてPPバンドを切った場合には、はさみを印に合わせて切ったことを認め、切り終えた2本のPPバンドの端同士をそろえて提示し、切ったテープが決まった長さになっていることを伝える	○決めた仕方で編み込むことができるように、左右に1本ずつの底縦バンドが編み込まれた半製品と残りの底縦バンドを提示し、編み込みの作業に取り組むように知らせる。教師が良品の編み目を指し示しながら取り組むようにし、隣り合う底縦バンドと編み目が互い違いになるように決めた仕方 で編み込み、規格通りの半製品を仕上げるのができた場合には、決めた仕方 で作業ができたことを認め、決めた仕方で作業をすることで、規格通りの半製品ができることを意味づける。 ・隣り合う底縦バンドと同じ編み目で編み込んだ場合には、編み目が互い違いであることに目が向くように、隣り合う底縦バンドの一番下の編み目を指さし、底横バンドに対して上と下のどちらから編み始めるのか問いかける。 ・底横バンドをとばして編み込んだ場合には、上下に編み込む順番がわかるように、底横バンドをとばしている一つ手前の底横バンドに対して、底縦バンドが上と下のどちらを通っているのか問いかける。	○場面や視点を決めて見直す必要性を感じる状況が生じるように、前時までに決めた仕方で作業を進めるように知らせて様子を見る。縁バンドの通し方が規格とは異なる半製品ができた場面を捉え、納期に間に合うように規格通りの半製品を仕上げていくために、半製品のでき具合を見直す場面と視点を友だちと話し合って決めるように伝える。縁バンドを胴部分の一つの面に通し終える度に縁バンドがすべての縦バンドを通っているか見直すことを決めた場合には、修正がしやすく納期に間に合うようにするための見直し方を決めたことを伝えて認める。 ・すべての縦バンドに縁バンドを通し終えた場面で見直すと言う場合には、見直しや修正のしやすさから見直す場面と視点を考えることができるように、修正が必要な半製品を提示し、縁バンドの通し方をすべて見直したり、必要な箇所を修正したりする活動に取り組むように伝える。 ○決めた見直し方で作業を進めるよさを実感できるように、決めた場面と視点で半製品のでき具合を見直しながら作業を進めるように伝える。決めた場面と視点で見直しながら作業を進め、規格通りの半製品に仕上げた場合には、決めた場面で見直しながら作業を進めたことを認め、そのよさを意味づける。 □半製品のでき具合を見直す場面や視点を友だちと話し合っているか（友）
3. 決めた仕方や見直し方で作業に取り組む、それぞれの工程で作業を進める。園	○決まった仕方です繰り返し裁断の作業に取り組むことができるように、谷型受けにPPバンドをかけた場面で様子を見るようにする。はさみを印に合わせてPPバンドを切った場合には、決まった仕方で作業に取り組んでいることを認め、これまでに切ったPPバンドの端同士をそろえて提示し、決まった仕方で作業することのよさを意味づける。	○自分で規格を確かめながら決めた仕方で作業を進めることができるように、残りの作業量を示し、底縦バンドを編み込む作業を進めるように知らせる様子を見る。良品で編み目を確かめながら、決めた仕方 で底縦バンドを編み込み、規格通りの半製品に仕上げるのができた場合には、規格通りの半製品に仕上げるのができたことを認め、気つけたことやそのよさについて問い、良品と「良否の視点シート」を提示して、決めた仕方 で作業をす	○決めた場面と視点で見直し、必要に応じて修正しながら一人で作業を進めることができるように、出来高表を指し示し、残りの作業に取り組むことを知らせる。縁バンドを胴部分の一つの面に通し終える度に縁バンドがすべての縦バンドに通っているか見直したり、必要に応じて修正したりしながら作業をしている場合には、決めた場面と視点で見直しながら作業をすることのよさを問い、納期に間に合う作業の進め方ができている

4. 使用した道具を片づけて、本時の成果を振り返り、次時への意欲をもつ。【終】	・印以外の位置にはさみを合わせる場合には、はさみを合わせる位置を思い出せるように、はさみを持っている手に教師が手を添えて、はさみを合わせる位置を問いかける。 ○使った道具を片づけることができるように、道具の名称を伝えたり、その置場を指し示したりして、片づけをすることを伝える。 ○本時でできるようになったことを振り返ることができるように、本時の作業の様子を撮影したタブレット端末を提示し、様子を見る。自分からタブレット端末を操作し、動画を見る場合には、自分が学習したことを振り返っていることと決まった仕方で作業ができたことを認める。 ☐自分からタブレット端末を操作して、自分の作業の様子動画を 見ているか（振） ○グループ全体で各工程の進捗状況を共有するために、工程ごとに進捗状況を報告するように知らせる。 ○次時への見通しと意欲がもてるように、本時で完成した半製品や製品を提示して、本時の成果を認め、次時の予告をして本時を終える。	るよさを確かめる。 ○本時でできるようになったことへの理解を深めたり、自分のめあての達成度を把握したりして、本時の成果を同じ工程を担当する友だちと共有するために、本時で気をつけたことや自己評価などを作業日誌に記入し、友だちと伝え合うように知らせる。規格通りの半製品を作るための仕方とそれに対する自分の評価を伝えた場合には、本時の学習を振り返ることができていることを認め、本時の成果を知らせる。 ☐わかったことやできたことを日誌に記入しているか（振）	ることを伝えて認める。 ☐必要に応じて修正をしようとしているか（粘） ○本時でできるようになったことへの理解を深めたり、自分のめあての達成度を把握したりして、本時の成果を同じ工程を担当する友だちと共有するために、本時で気をつけたことや自己評価などを作業日誌に記入し、友だちと伝え合うように知らせる。見直す場面と視点やそれに対する自分の評価を伝えた場合には、本時の学習を振り返ることができていることを認め、本時の成果を知らせる。 ☐気をつけたことやできたことを日誌に記入しているか（振）
---	---	--	--